

財団法人 赤堀病院

Akahori Hospital

No. 07-008-2011作成

新築
病院

発注者	財団法人 赤堀病院	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	鴻池組大阪本店一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社鴻池組 広島支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

旧家の趣を継承し、まちなみにとけ込む病院を目指して

はじめに

赤堀病院は開業して約90年になり、古くから岡山県北部の地域医療に貢献している産婦人科病院である。敷地には趣ある庭園を持つ旧家、それを囲む瓦付き土塀があり、まちなみにとけ込んでいた。これら趣を継承し、新たにまちなみにとけ込む病院を目指した。

敷地の段差形状を活かした計画

敷地には北側と南側で高低差約2.5mの段差形状があった。この段差形状を活かし、本棟の地階部と駐車場棟（人工地盤）を南側下段部に配置することで、必要な駐車台数を確保すると共に廃棄土量の削減に努めた。



外観（前面道路から望む）

まちなみにとけ込む景観形成

外観は塔状の縦ラインと跳ね出し形状の横ラインを用いたシンプルな形状とした。建物の色彩については、落ち着いた白と茶をベースに、既存瓦に近い黒をアクセントとして取り入れ、擁壁には既存土塀の近似色を用い、かつ庭園を囲う土塀を一部保存・活用することで、まちなみにとけ込む景観形成を目指した。

のべ石の再利用、樹木の保存と移植

土塀及び庭園の解体時に排出されたのべ石は、一時的に別敷地で保管後、エントランスの石塀や庭園内の舗装等に再利用した。

庭園内の樹木は基本的に保存し、工事に影響する保存樹木については、一時的に別敷地で養生後、エントランス廻り等へ移植した。



エントランスの石塀、樹木の移植



のべ石の保管



樹木の養生

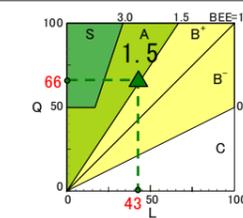


建物データ

所在地	岡山県津山市
竣工年	2011年
敷地面積	1,928㎡
延床面積	2,435㎡
構造	RC造
階数	地下1階、地上4階

CASBEE評価

Aランク
BEE=1.5
2010年度版
自己評価



待合ホール（庭園を望む）



ラウンジ（庭園を望む）

庭園の保存・活用

庭園の緑地及び池等の生物資源の保存に取り組むと共に、敷地内の温熱環境の向上も図った。庭園にはベンチ等を設置し自然に親しむ環境を確保した。

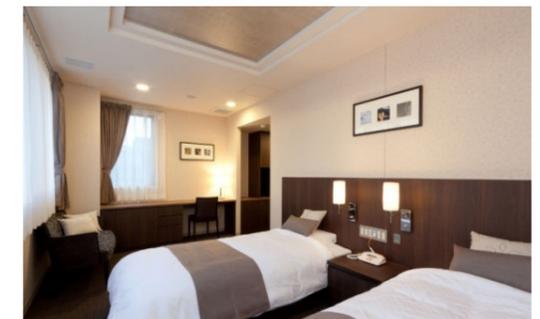
また、庭園内には吉井川の河岸段丘が残されており、この景観を保存した。庭園に面した待合ホール（1F）、ラウンジ（2F）の大きな開口部よりこの景観を内部へと取り込み、開放感と安らぎを与える空間を創出した。



庭園の保存・活用

自然採光

待合ホール・ラウンジの北・西面には大きな開口部を設けた。一日中均質な北面採光と、レースカーテンにより日射を抑えた西面採光を取り入れ、明るく開放的な空間を目指した。この採光により、院内では窓際の照明を消灯し、消費電力を削減する取り組みを行っている。病室は3階に配置し、個室と二床室共に採光が十分に確保されており、東側病室からは津山城、西側からは県北の連山を望む事も出来る。



病室（特室）

照明制御

便所及び階段室では人感センサーによる照明制御を採用した。施設内では作業単位毎にリモコンによる照明制御、病室内ではベッド単位毎での照明制御を行い、省エネルギーの向上を図った。また、主要諸室では演出づくりの為に調光設備を採用した。

水の消費抑制

便所や手洗いスペースには自動洗浄便器、自動水洗などの節水型機器を採用し、水資源の保護及び省エネルギーを図った。

避雷針の設置

落雷の多い地域であり、本建物が周辺建物より高いことを配慮して避雷針を自主設置した。



人感センサー制御



自動洗浄・自動水洗



避雷針

設計担当者

統括：久保田広法／建築：加賀尾和紀、矢鳴陽平／構造：浅井純／設備：世古哲紀

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（既存庭園の保存）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（建物配置や形態のまちなみとの調和、既存土塀の保存）
- LR1. 2. 自然エネルギーの利用（自然採光）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（全熱交換機、人感センサー）
- LR2. 1. 水資源保護（節水型機器）